# てるびっと

1998. 3.

No.4

京都府・海外研修ＫＹＯのあけぼの会

海外研修ＫＹＯのあけぼの会
会長　田　中　田鶴子

会員の皆さまには、お変わりなくお元気にご活躍のことと拝察申しあげます。

平成元年に創設されました当会の会員数も100名余りとなり、今年で10年の節目を迎えることとなりました。これも皆さまのお力添えと心より感謝申しあげる次第です。

さて、昨年は地球温暖化防止京都会議が行われました。世界規模で環境問題に取り組む「京都議定書」が採択され、地球温暖化防止に向けた歴史的な年となりました。この会議に訪れた外国人は6,000人以上ともいわれており、新装になった京都駅ビルはその歓迎の意を果たしたともいわれます。

また当会では、駅舎の完成と共に移転した京都府国際センターを会場にして「地球を感じる女性たち」というテーマでセミナーを開催し、合わせてクリスマス懇親会を催しました。多数の会員の皆さまにご参加いただき、久々に楽しい語らいの場が持てましたことは最高の喜びでございます。

第９回ＫＹＯのあけぼのフェスティバル冬では、会員皆さまの協力によってメインテーマ「環境とわたしたち」に沿って「地球をまもるのは私たちのこころです」をかかげ、各パネラーより発表がありました。発表を通じて、私たち自身の暮らしを見直す時がきていることに気づき、意識を変えて小さなことから、また身の回りのことから行動しようと参加者一同が心を熱くしました。

女性としての感性を生かして地球的レベルで行動することが、21世紀に向けた環境保全への私たちの役割であると考えております。

京都の女性関係団体のリーダーとして、海外研修を通じて培った国際性を地域活動に還元していきたいと考えています。海外研修ＫＹＯのあけぼの会がその発信基地となれるよう皆さまの一層のご協力をお願いいたします。

**▶1997年度総会及び研修会◀**

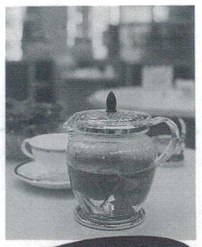
日時　５月14日(水)午後１時30分
会場　京都府女性総合センター第３セミナー室

★総　会
1．開　　会
2．会長あいさつ
3．来賓祝辞
4．議長選出
5．議　　事
　① 1996年度　事　業　報　告
　② 1996年度　収支決算報告
　③ 1996年度　会計監査報告
　④ 会則の改正について
　⑤ 役員選出
　⑥ 1997年度事業計画(案)審議
　　※12月12日　　研修会事業
　　※１月24日
　　ＫＹＯのあけぼのフェスティバル
　⑦ 1997年度収支予算(案)審議
　⑧ そ の 他
6．新入会員紹介（自己紹介）
7．閉　　会

★研修会（フォーラム）
テーマ　「発信、南十字星のきらめく国から」
パネラー　1996年度海外研修団員

表題「てるびっと」は、京都府知事荒巻禎一様の直筆で、インドネシア語（京都府友好国）「あけぼの」の意味です。

表紙絵について
京都府に息づく豊かな自然の美しさ、「花」しだれ桜、さが菊。「木」北山杉。「鳥」オオミズナギドリ。を戸塚フランス刺しゅうで表現したものです。


10th Anniversary
～10年目の新しさ～
Fresh Herb Tea
比叡山の中腹にあるハーブ園から、
毎朝届けられる有機栽培無農薬の
朝摘みフレッシュハーブと
独自の活水化システムで供給される
からだにやさしい
弱アルカリ性の水が生み出す、
ブライトンの爽やかなおもてなし。
Cour Au Midi
クー・オ・ミディ（1F）

フレッシュハーブティー
¥900
京都ブライトンホテル
〒602-8071 京都市上京区新町通中立売（御所西）
Tel.075-441-4411（代）


フォーラム
# 『まるい地球が好きです　でも地球は困っています』

去る１月24日(土)京都府民総合交流プラザにおいて「ＫＹＯのあけぼのフェスティバル冬」が開催されました。京都商工会議所婦人会、海外研修ＫＹＯのあけぼの会の２つの団体で環境問題についてのフォーラムを開催いたしました。☺

基調講演

## 「地球温暖化防止京都会議のあと」

講師　山　口　　務 氏
(財)地球環境産業技術研究機構(RITE)　専務理事

京都会議で決まったことを実現し、実行していくために何をしなければならないかに重点をおいてお話をさせていただきます。

基本は、私たちがエネルギーを使う➡$CO_2$が大気中に出て、増え続けていく➡将来地球が温暖化するということです。京都会議のメインテーマは、大気中に$CO_2$を増やさないための対策は何かあるのか、ということでした。

京都議定書の採択は、温暖化防止に向けた歴史的な第一歩であります。この歴史的な第一歩という意味は、これまで増加の一途をたどってきた世界の$CO_2$排出を先進国だけではあるけれども、これから少なくとも右下がりにして行きましょうという、歴史的な転換の時期を迎えたんですね。京都議定書というのは、改定はあるもののすべての温暖化対策の基本となる大変意味のあるものだといえます。

このような対策を精一杯行っても、なかなか$CO_2$の量を減らすことはできないのが現状です。大事なのは国民各層の自主的行動の促進ということで、今日の会合も大変大事なことです。これからも国民運動を展開して、参加型、行動型の運動を盛りあげていきましょう。

今後の課題ですが、いわゆる京都自身が開催都市として今後とも環境モデル都市を目指していこうと取り組みをはじめておられますので、是非実現をお願いしたいと思っております。

最後に私の提案ですが、京都会議の成功を踏まえて、５年後の2002年に京都で地球サミット開催するということを新たな目標を設定してはどうでしょうか。環境モデル都市をめざしての中身の充実を図り、私たちの取り組みも一段と力が入る。そういうきっかけにしてはいかがでしょうか。

## Q&A

会場からこのような質問が出され、山口先生にお答えいただきました。

Q：原子炉を20基作って解消にあたることについて一方では弊害があることをどう考えておられますか？

A：大前提は安全性は不可欠ということ。安全性は最大限の優先順位で取り組み周辺の地域住民の方々に不安を与えないような対策が前提です。温排水の多少の影響でガンになるなどは考えられません。

Q：エルニーニョ現象と$CO_2$の関連はありますか？

A：今のところはっきりしていません。これは世界的な海洋学者、気象学者等が取り組もうとしています。あと５年から10年で明らかになっていくだろうと思っています。

地球温暖化の実験やOHPを使ってのRITEでの研究内容の紹介（例えば、排出された$CO_2$を燃料にして再利用する装置など）をして頂きました。

「空気」というあまりにも身近すぎるがゆえに、つい忘れてしまいがちな重要な問題を理論的に提示して頂き、「地球」的視野で日々の行動をすることの大切さを実感いたしました。☺

パネルディスカッション

# 『美しい地球をまもるのは私たちのこころです』

講演につづいて、パネルディスカッションをおこないました。1時間足らずの短い時間でしたが、日頃、環境について思うことを話し合っていただきました。

コーディネーター　山口　務氏（RITE専務理事）
パネリスト　瀧　静子氏（京都商工会議所婦人会理事）
一瀬　裕子氏（京都府商工会婦人部幹事）
ナターリャ・レペチュク氏（京都府国際交流員）

**瀧氏：**昨年秋に、京都府女性海外研修団の一員として、北欧４カ国、デンマーク、ノルウェー、スウェーデン、フィンランドを２週間かけて訪問してきました。まず街にはあちこち市電が走り、その道路を自動車も利用しています。通勤や通学は自転車利用が多く、自転車道路が設けられ、自転車のリースがあちこちにあって、コインを入れると自転車のロックがはずれて、目的地まで使用。そこで返却するとコインが戻る仕組みになっており、気軽に利用できます。自動車は信号待ちで３台目以降はエンジンを停止させなければなりません。自動販売機はなく、飲物は殆どビンで、１本のビンを30回再利用し返却するとビン代が戻ります。マーケットのビニール袋は有料、野菜なども欲しいだけのバラ買いで一つ一つパックがされていません。又、ごみ税が採用されており、街角や至る所に大きな色とりどりのデザイン的にも格好のよいBoxがあり、各個人が色によってごみの種類を分けて捨てに行くようになっています。生ごみを焼却してこの熱を地域暖房に利用しているので、光熱費がかなり安く、暖炉は部屋の飾りで煙りも出ていません。

こういった環境保全に国を挙げて小さいことから取り組んでいることに感銘を受けました。日本ほど便利な国はないのではと思いますが、環境破壊をこれ以上しない方策、それを本当に心してやっていかなければならないと思って帰ってまいりました。

**一瀬氏：**私は北山杉のたくさんある京北町にいます。13年前からペンションを開業しています。私も山の中が大好きですし、お客様にも自然の好きな方たちが寄ってこられます。山で出会った時の「こんにちは」の挨拶、あれ不思議ですね。山の中やというだけで心が開かれて本音で語れる。ドンドン本音のお付き合いができるんです。四季折々の花が咲き、きれいな川、北山杉の林、本当にすてきな環境にすんでおります。その美しい自然環境を少しでも守ろうと私の組織もリサイクル運動（廃油石けん作り、ＥＭ菌使用の有機肥料づくり、生ごみの減量化、牛乳パック回収など）をしています。しかし興味関心のある人20％程だけがクルクル舞いをしているだけで、後の80％は「何も知らん」というのが現状です。

この京都会議の問題を多くの人に知ってもらおうと、組織同士が横に手をつなぎ同じ目標にむかって皆で前進していきたいという思いがメキメキと心の中で芽生えています。

私、今日のために勇気を出して京北町長さんに「横のつながりのネットワークづくりの支援」をしてもらいたいとお会いしました。でも女性組織のそういった必要性は充分に理解してもらえませんでしたが、とにかく行動することで一歩前進したと思っております。今後、町を中心に関心度をどう高めていくかが私の課題との思いでいます。

**ナターリャ氏：**私はウクライナで起こり世界中の皆さんの問題となったチェルノブイリ事故について話します。

1986年４月26日、ウクライナ共和国でチェルノブイリ原子力発電所で史上最悪の事故が起こりました。暴走した核反応のために、原子力発電所にある４つの中の１つの原子炉が吹っ飛んで、大量の放射線物質が大気中に飛び散り、旧ソ連共和国だけでなく、2000km離れたヨーロッパにも放射線物質が降り、ウクライナでは300万人以上が被災、発電所から３km以内の地域は今でも立入禁止区域となってます。

現場では、大勢の作業員や死亡者が高いレベルの放射能を浴びて犠牲者は３万人以上、生き残った作業員の多くは目の機能が段々低下、チェルノブイリエイズと呼ばれる重い病気に悩まされています。汚染区域にいた子どもたちも成長が遅く重い病気に悩まされています。甲状腺がんの発生率が10倍高くなり、ストレス性や神経精神病的な障害も15倍に増えてきました。1997年だけでチェルノブイリ事故の因果関係がみられた病気で死亡した人は16,000人です。

ウクライナ政府は2000年までチェルノブイリ発電所を閉鎖と発表していますが、発電所の解体や他の発電所の安全性の向上などまだ問題となっています。

$CO_2$を発生しない原子力発電所は今のところ不可欠なことですが、操作を厳重にしながら国民の安全性を確保すべきだと思います。

**環境問題に対しての提言**（山口先生より）

- 京都会議の後での主役は紛れもなく行動する消費者、地域の方々であり、行政はそれをバックアップし支援していく。
- 行政が動かないと出来ないことは問題提起して運動の輪を広げ、地域協力を大切にする。
- 一人で何歩も進むよりもみんなで一歩を進めることの方が効果は大きい。
- 私たち自身が自らの知恵と友情によって人の輪を連帯の輪を広げることによって力強い運動になる。



## 地球のために、私たち自身のために〝地球を守るのは私たちの心です。〟

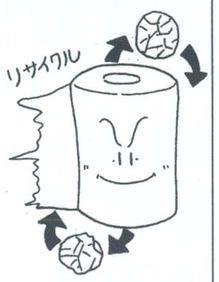
### ◆ 私たちの決意 ◆

**瀧氏：**ついこの間は日本は世界一の経済大国といわれ、今や世界一のダイオキシン大国といわれています。私たちはこの10年間特にぜいたくをしてきたように思います。一人ひとりが認識を持ち毎日生活することが大切です。

地球があってこその私たちです。
健康があっての幸せです。
できる限り節約をしましょう。
身近な人たちにこの実態を話しましょう。

**一瀬氏：**永平寺の管長さんの「山は心身なり…」という言葉を踏まえて、皆んなで自由に考えていけばいいと思うんです。環境問題に対して力をつけていこう、何でも見聞きしよう。それを一人でも多くの人に話していこう。これを私の環境問題に対する取り組みのモットーにしていきたいと思っております。

**ナターリャ氏：**ウクライナは今非常に不景気な状態であります。誰もごみを捨てる前に分けようと思いません。ごみは全部同じところに捨ててリサイクル制度などは一切ありません。日本に来て本当にびっくりしましたが、今はかなり慣れて、協力しようと思っています。

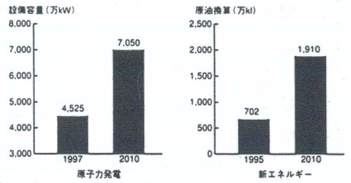


## どう減らす$CO_2$

我が国の$CO_2$排出量は、95年時点で既に90年と比べて8.3％も伸びており、このまま放置すれば2010年には90年と比べて20％もの増加が見込まれます。このため、今こそ、エネルギーの供給と需要の両面からのこれまでにない思い切った対策が求められています。

### エネルギー供給面での対策

$CO_2$を発生しない原子力発電を国民の理解と安全性の確保を大前提として今から約20基増やすことが必要です。また、同じく$CO_2$を発生しない太陽光発電等の新エネルギーを現状の約3倍に増やすことが必要です。

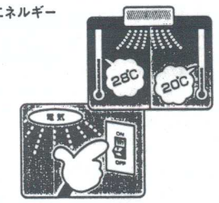



### エネルギー需要面での対策～省エネルギー対策

家庭、オフィス、工場、交通、物流などあらゆる面で徹底した省エネルギーが必要です。そのための対策は、経済や国民生活への大幅な影響が生じないように配慮しながら、各界各層が一体となってギリギリの取組を実践していくといった大変厳しい内容のものです。

### 家庭では

いくら製品や住宅の省エネルギー化を進めても、その使い方が今のままではエネルギー消費の伸びは抑えることができません。私たち一人一人の取組が必要です。




- ◎ 冷房温度を28度以上に引き上げましょう。
- ◎ 暖房温度を20度以下に引き下げましょう。
- ◎ 給湯温度を引き下げましょう。
- ◎ 不必要なテレビ、エアコン、シャワーの使用時間を短縮しましょう。
- ◎ 照明、電気器具などのこまめなスイッチオフに努めましょう。
- ◎ 白熱電球から蛍光灯への付け替えを進めましょう。
- ◎ 冷蔵庫、お風呂、洗濯機、電気こたつなどを効率的に使いましょう。
- ◎ 短距離の自動車利用を徒歩や自転車に変えるなど、自動車を使わないで済むような工夫をしましょう。
- ◎ 駐停車時のアイドリングをやめましょう。

（政府広報「地球のために私たち日本が今できること」どう減らす$CO_2$）

1997年度海外研修ＫＹＯのあけぼの会講演会事業

# ●講演会●　テーマ「地球を感じる女性たち」

1997年12月12日　於 京都府国際センター

1997年度海外研修ＫＹＯのあけぼの会講演会事業が、新京都駅ビル内の京都府国際センターに於いて開催されました。第一部は、大阪国際女子大学の、瀬地山澪子（せちやまみおこ）先生の講演をお聞きし、引き続き、スリランカ国出身で、京都府名誉友好大使の、ニシャンタさんと、瀬地山先生とのトークが行われました。第二部は、ホテル・グランビアで、会食懇親会が持たれ、会員相互の交流を深めることができました。その後希望者は駅ビルの見学をし、和やかなうちに、充実した研修会を終了しました。

大阪国際女子大学・女子短期大学助教授
ＷＴＣ顧問　瀬地山　澪　子

私はこの「地球を感じる女性たち」という題をいただいて、さて、いつ自分は地球を感じただろうと考えたとき、お産のとき地球をまるごと感じたなあということを思い出しました。私は、大学を出てすぐＮＨＫに入ったのですが、そこは非常に男性社会で、女性はほんの少人数で、独身の方、結婚して子供は産まないって形で仕事をしておられました。私はどうしていいかわからない、そういう試行錯誤の中で、第一子を産むのですが、病院に入って、いざ産むとなったとき、母が非常に神々しく見えたのを覚えています。陣痛が始まってから凄いイメージが起こって来たのです。「そうだ、これって、太古の昔から、女はこうしてたんだなあ」っていう思いがどういうわけか、歴史を飛び越えてまるごと女の人という感覚があったのです。それと同時にどこの民族であれ、どこの国であれこうやって子どもを、命を産んできたんだなって感覚がパアッーと、蘇ったっていう感じなんですね。それまでは、できる限り女を否定しようとして走り回っていましたので。そのとき初めて、女の人への連帯、女の人とほんとに一緒に生きていくんだという気持ち、それが私にとって「地球を感じる女性たち」といわれるときの原点かも知れないと思いまして、こういう題を与えられたことを今とても幸せだと思っています。

この事を思い返すと、実は「お産」を考えることは、私たちの近代の文化を考える上でも、私たちの生き方を考える上でも、非常に面白い、重要な題材だということに気付きました。

日本では、赤ちゃんは、平日の午後２時に生まれると言われています。土日、夜中、夜明け、先生と看護婦の手が少ない時を避けて工場生産のように、病院で管理されているからです。そのためには、一般に陣痛促進剤といわれているものを使います。陣痛促進剤で生まれたお子さんに、非常に脳障害が多いのですね。自閉症、または脳性マヒ。それからお母さんの方に、医療は進んでいるにも係わらず、先進国の中で、妊産婦死亡が若干高いんです。自然のお産ですと、赤ちゃんと母体が、互いにホルモン連絡しながら、陣痛というのが起こり、準備の整ったところで生まれるという、複雑な状況の中で出産するわけです。ところが何の連絡もなく、準備もないとき、薬で陣痛を起こすと、個人差の強い薬ですので、赤ちゃんやお母さんにこういう結果が出る恐れがあるわけです。

お産というのはぎりぎりまで健康なんだけれども、いったん何かあると大変危険な状態が背中合わせにあるという理由で、助産院へ行きたいんだけど、私たちは、病院へ行っています。そこで、一番いいのは、病院の中に助産婦さんの体制や地位をきちんと確立して、お産は助産婦さんがやるんだ、お医者さんじゃないんだ、自然分娩が主軸なんだと、という形に、病院の中がなればいいんです。

これだけ問題が起こったんだから、医者は変わってほしいと思いますけれど、根本的に自然分娩でやりましょう、という考え方になかなかいかない。しかも、今の医者には自然分娩のノウハウがありませんから。

だから、本当に変わるっていうのは、女の人がよほど一生懸命、自分たちの声をあげていかないとなかなかできないことなのです。

日本では、今少子化ですので、産婦人科は、院内をピンクの壁にしたり、お食事を贅沢にすることはあっても、根源的なお産の姿勢を変えることはやっていません。

それはやっぱり産む側の女がしっかり言っておかないと、なかなか変わらない事だと思う。だから、若い人たちは、力をふりしぼって自分たちのお産を作りあげていかないといけないし、私たちは、まわりでそれをサポートしたり、産婦人医と話したり、地域で運動を起こすとか積極的にやっていきたいなあと思っています。

そうやって「産まされていたお産」から、自分たちが「産むお産」へと変えること、そのこと自体が私たちは、民族のちがい、歴史のちがいを越えて、地球をまるごと女たちが感じて、ぱっと話が通じ合うことだと思います。そこを頂点にしていろんなことを考えていくと、環境問題もそうですし、人が生きるということは、どういうことなのかっていうその原点のところで、私たち女性は大事な役目を持っているんだなと実感します。

男女平等、役割も均等。私たちも仕事をしていくから、男の人も家の中の事もしてほしい。なればこそ、お産は、お医者さんに任せるのでなく、私たちが責任を持ってします。という姿勢は大事なことだと思っています。

そういう若い人たちの手助けをしながら、私たちが地球を感じ合って、命、地球、そして地球で生まれる命、というイメージを、つなげていって膨らます楽しさを、私たちは持っているんだなあということを、自分でも再確認させていただきました。

ご静聴ありがとうございました。

## ―― 瀬地山先生 and ニシャンタさんトーク抜粋 ――

**〔瀬地山先生〕**ニシャンタさんは、スリランカの御出身だそうですが、スリランカではまだ内戦が続いていると聞いたんですけれど、誰と誰が戦っているのでしょう？　徴兵制はないわけですね。民族がどうなっているのか、説明してもらえますか。

**〔ニシャンタさん〕**兵隊は志願制です。スリランカは、多民族・多宗教・多言語国家と言われていまして、シンハラ民族が一番多く、次はタミル民族で、ムアー民族という民族もいます。言語も、民族が変わると変わって、シンハラ民族は、シンハラ語を、タミル民族は、タミル語を喋りますし、宗教も、シンハラ族は仏教徒で、タミル族はヒンズー教徒と変わってくるんです。

今回の問題は、政府に反対する少数民族の中の一部過激派が、政府に対して喧嘩を始めたのがきっかけです。スリランカは、百年間に亘ってイギリスの支配を受けてまして、英語が公用語でした。それが、政府の交代と共にシンハラ族が喋るシンハラ語を公用語にしたのが最初のきっかけなんです。

それともう一つ、領土問題もあるんです。タミル人が北部に多くて、タミル人が、そこを分けてほしいと、政治的独立を要求している。それが、いつの間にか、タミル人対シンハラ人と発展するんですね。

実は僕、幼稚園から大学迄全部全寮制の男子校だったんですけれど、そこに、タミル人もシンハラ人も一緒にいて、何の問題もなく同じラグビーチームで一緒にいろいろやっていたんですよ。今ではチームの半分位のメンバーが亡くなっています。戦争があることで海外からの投資がなく、仕事がない。働くとこないから、みんな軍隊に行ってしまうんです。軍隊に行ったら死んでしまう。最近は悪循環ですが、それに友たちが、同級生が巻き込まれて、今度帰国して、何か言おうと思って帰ったらもういなかった。寂しいですよね。一日も早く平和なスリランカに戻ってほしいと思いますけど。

**〔瀬地山先生〕**男の人と女の人の関係はどういう関係になっていますか。女性の地位とかはいかがですか？

**〔ニシャンタさん〕**有名な話やと思うんですが、世界初の女性大統領はスリランカですよね。バンダラナイケって言って、ご主人が最初の大統領で、その次に奥さんバンダラナイケ女性大統領になって、今、彼女の娘が大統領で、お母さんが今首相になっている。

女性大統領がいるくらいですから、日本とは全然違う。女性の会長とか、女性の上司とかいて、男性の部下がいても全然普通なんです。どういうふうに決まってくるか、というと教育です。教育をどれだけ持っているか、能力がどれだけあるか、で決まるのであって、男性女性っていうようなものは全然関係ないですね。女性の管理職も多いです。

**〔瀬地山先生〕**働くのは、パートタイム？　フルタイム？　結婚して辞めて、またすぐフルタイムの仕事に戻れるわけ？　家庭の中での役割分担とか、どうなんでしょうか。

**〔ニシャンタさん〕**スリランカでは、アルバイトという概念はなく、みんなフルタイムで社員です。女性が結婚して、子育てし就職しようとすると、社会的にすごくサポートされていて、出産後の休みが３カ月もらえる、その後も早く帰らせてもらえるとか、会社でやってくれるみたいです。もう一つ日本と大きく違うのは、物価が安かったので、女性が生産活動に参加しなくても父さんの給料でやっていけたんですよ。今はインフレ状態で女性も参加することになってきていますが。そして家の中が忙しくもないんです。お父さんは会社人間でないんですよ。あくまで会社は金儲けの手段であり場所であると。５時きっちりに帰ってくる。僕が小さい時、父は昼休みを使って、お風呂入れに来たっていうんですよね。母に任せると危ない、お前にできひんからといって入れてたみたいです。頭刈ったりするのも。で早く帰るんです。料理はしませんでしたが、庭の手入れとか、重い仕事は彼が引き取ってやってました。会社の給料も、よほどの重労働でないかぎり、男女の差は無く同じなんですね。

**〔瀬地山先生〕**日本に長くいらっしゃって、日本をどのように見ていらっしゃるか、ご専門の日本的経営っていう視点からでもいいし日本を見て、いろんな感想をお願いします。

**〔ニシャンタさん〕**僕は、京都に骨を埋めるつもりでいますけど、外国人の僕は、なかなか受け入れてくれないなあと。お互いに全然利益に関係ないところやったら、親しくさせていただいても、いざっていうとき、やっぱり使ってくれないってとこありますよね。もう一つ、男女平等といってアメリカばかり見ているような気がします。全てを合理的に、そしてお金と、この２つのキーワードでやっちゃうんですよね。だから、愛とか情けとか少なくなっていると思うんですよ。発展途上国の中でも、参考になる材料がいっぱいあると思います。

「地球を感じる女性たち」との演題に引き付けられ、海外研修ＫＹＯのあけぼの会講演会に参加させて頂いた。それはまさに、地球に掛け替えのない尊い生命を生み出す女性の、一大イベントである種々（さまざま）なお産を通して、女性が感じる地球の重さのことではなかったかと思った。科学の進歩と共に、医学も急速な進歩を遂げている今日こそ、今一度原点に帰り、地球を感じる生命を産み出す女性としての誇りと責任を、21世紀を担う若い女性達に自覚してほしいと思った。

鈴木初子（ガールスカウト）

平成８年11月海外研修に参加、その後総会に出席した時、講演会に出席した時にも感じた事ですが、皆さん立派な方々ばかりで私は場違いをしたのではないかとつくづく思いました。今回の講演会で、瀬地山先生のお話しの中にありました出産の時の陣痛誘発剤の事については、一昨年私の二女がお産をしましたが、１月５日の予定日が12月24日に産まれた事もあり、改めて考えさせられました。懇親会の時は、ニシャンタさんと同じテーブルになり、楽しいひとときを過ごすことが出来、プレゼント交換の品も、サンタクロースの帽子が当たり、孫へのいいお土産になりました。今後もできる限り参加させていただこうと思いました。

森本　節子（農業士会）

**▶平成９年度京都府女性海外研修団員名簿◀**

団　長　辻　井　千恵子
副団長　瀧　　静　子
　　伊　藤　栄　子
　　小　川　展　子
　　佐　野　恭　子
　　杉　本　ナ　ツ
　　中　嶋　活　世
　　能　勢　久　子
　　福　島　宣　子

◇平成９年度の女性海外研修事業は、平成９年10月28日から11月９日まで13日間にわたり、社会保障制度が行き届き、女性の地位が高く、世界の中でも突出した福祉先進国と言われている北欧４カ国、デンマーク・ノルウェー・フィンランド・スウェーデンを訪問しました。
各国では、女性関係機関、福祉、環境関連施設等を訪ねたほか、フィンランドでは在住日本人との交流、スウェーデンではホームビジットにより現地女性との交流を図るなど、女性問題や環境、高齢者福祉、子育て支援の現状とその問題点等について、多くのことを学び大きな示唆を得ました。

## 故太田緑さんを偲んで

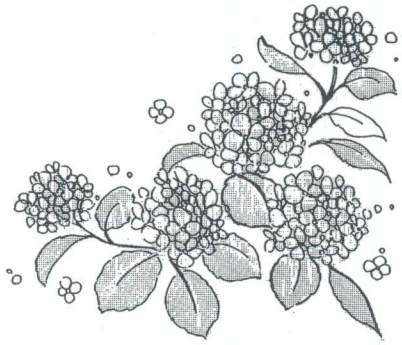
1997年４月24日逝去　享年40歳

私と緑さんは1985年第３回ナイロビ世界女性会議に、京都府から海外研修でご一緒して以来の付き合いでした。緑さんは女性の地位向上には専門教育の必要を感じられ、再びカナダの大学へ留学されました。卒業後は国連職員としてスイス・イタリア等で、すぐれた才能で活躍されていました。又、料理の腕前は抜群で著書も出版されています。

ご結婚のあとニューヨークへお帰りの際京都へ立ち寄られ、お目にかかったあの美しい姿は今なお瞼から離れません。

昨年５月ニューヨークでお会いする約束をし楽しみにしていた矢先、急逝の報を受け悔やまれてなりませんでした。今は生前中に掲載された一冊の本で偲んでいます。

（栗田澄子）

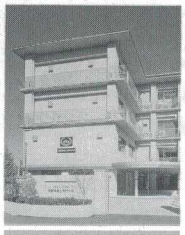



学校法人
大和学園（タイワ）
TAIWA GAKUEN EDUCATION INCORPORATED
URL http://www.taiwa.ac.jp

創造も想像も、人間だけが行なう知的生産活動。人は人にしか語れないし、人は人から勇気や愛情、情報や学びを得ることができる。だから私たちは、人にこだわります。専門家をめざし、学びを本業とする学生たち、生涯教育によって自分を高めようとする社会人、そして教える人。そんな人間どうしが互いに高め合い共に自分を磨く社会の創造に私たちの使命はあります。

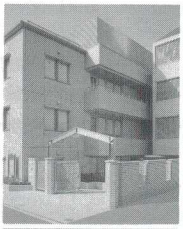
ビジネス・健康・食文化・サービスをテーマとする総合教育研究機関

労働者ビジネス・キャリア制度認定教育訓練実施校
キャリエール国際ビジネス専門学校
外語ビジネス学科／ホテル・観光ビジネス学科
経営情報学科／OAビジネス学科／OA秘書学科
キャリエールフィニシングスクール
キャリエールクッキングスクール
大和学園キャリアフォーラムまなびっと
〒604-8006 京都市中京区河原町三条上ル
TEL.(075)241-0191



厚生大臣指定栄養士養成施設
京都栄養士専門学校
栄養士科／医療秘書科
〒616-8376 京都市右京区嵯峨天竜寺瀬戸川町18
TEL.(075)872-8500

厚生大臣指定調理師養成施設
京都調理師専門学校
調理師科／上級調理師科
大和学園フードサービス研究所
〒604-8872 京都市中京区西条通千本角
TEL.(075)841-0191



厚生大臣指定製菓衛生師養成施設
京都製菓技術専門学校
製菓技術科
〒604-8872 京都市中京区西条通千本上ル
TEL.(075)822-6091


## 編集後記

会員の皆様、1997年度の活動をまとめたてるびっとをお届けいたします。世界の注目を集めた「地球温暖化防止京都会議」でしたが私たちにもあらゆる場面で環境を考える機会がありました。勉強をし、交流をし、日常生活に変化が見え始めてきたようです。実践するのは私たち。心を一つにして地球環境問題に関心を高め続けようではありませんか。
海外研修ＫＹＯのあけぼの会の会員数も100名を越えました。ますます充実した会として取り組んでいきたいと存じますので、会運営等につきまして皆様の御意見をお待ちしております。今後共御支援御協力よろしくお願いいたします。


発行責任者
海外研修ＫＹＯのあけぼの会
役員一同